

資料紹介

明治20年代前半の新聞『暁鐘新報』～東伊豆町大川区有資料～

はじめに

大川温泉で知られる東伊豆町の大川区は同町北部に位置する。県史編さん事業で調査した大川区所蔵の『暁鐘新報』は、静岡県立中央図書館歴史文化情報センターで複製の紙焼きを保管し、大川区より歴史文化情報センター一内での公開許可を頂いている。利用者は歴史文化情報センターで閲覧が可能である。所蔵している発行年月は、1889（明治22）年の10月～12月と1890（明治23）年1月、3月、4月～6月、8月、9月（ただし19日まで）のあわせて9ヵ月半、244日分で、この期間のほぼ全号がそろっている。詳細は〈表1〉のとおりである。

〈表1〉『暁鐘新報』（大川区所蔵・歴史文化情報センター架蔵）一覧

発行年月	号数	備考
1889年 10月	528号～553号	4日付531号が欠
11月	554号～578号	
12月	579号～603号	
1890年 1月	604号～626号	
3月	650号～674号	
4月	675号～698号	17日付と18日付はいずれも688号
5月	699号～725号	
6月	726号～751号	
8月	778号～804号	
9月	805号～821号	818号欠番

〈表2〉大川区以外の『暁鐘新報』所蔵状況

発行年月日	号数	所蔵機関
1887年12月20日	号外	東大
1888年4月25日	91号	静岡 浜松
1888年4月26日	92号	静岡 浜松
1888年12月26日	297号	静岡 浜松
1888年12月28日	299号	静岡 浜松
1888年12月29日	300号	静岡 浜松
1889年1月4日	301号	静岡 浜松
1889年1月6日	303号	静岡 浜松
1889年2月26日	345号	東大
1890年4月13日	685号	静岡 浜松
1890年10月12日	840号	静岡 浜松

東大…東京大学明治新聞雑誌文庫
静岡…静岡県立中央図書館（本館）
浜松…浜松市立中央図書館

国立国会図書館の全国新聞総合目録データベースによると、東京大学大学院法学政治学研究科附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫で2日分の原紙が所蔵されている。また、静岡県立中央図書館（本館）、浜松市立中央図書館では、9日分をマイクロフィルムで閲覧できる。これら計11日分の詳細は〈表2〉のとおりで、『暁鐘新報』の公的機関における所蔵は極めて少なく、大川区所蔵・歴史文化情報センター架蔵の244日分は明治中期の貴重な新聞資料である。

明治20年代前半の静岡県内各紙の動向

春山俊夫氏解説「明治前期静岡県内発行新聞所在目録（六）」（『静岡県近代史研究』第11号 1985年）によると、1881（明治14）年創刊の『東海暁鐘新報』が1887（明治20）年に破産して、『絵入東海新聞』（後に『東海日報』、さらに『此花新聞』と改題）となったのに対し、かつて『東海暁鐘新報』を発行していた前島豊太郎、格太郎父子が1887年12月に創刊したのが『暁鐘新報』であった。この明治20年代前半の県内各紙の発行高は『静岡

＜表3＞明治20年代前半の静岡県内の主要新聞発行高（『静岡県統計書』より作成）

新聞名	発行高					
	1887年 (明治20)	1888年 (明治21)	1889年 (明治22)	1890年 (明治23)	1891年 (明治24)	1892年 (明治25)
暁鐘新報	4,696	360,954	300,299	553,124	266,286	-
此花新聞（東海日報）	301,345	167,328	203,576	378,873	96,151	-
東海暁鐘新聞	-	-	-	-	87,556	578,111
静岡日報	-	-	-	-	398,607	384,834
静岡大務新聞	489,173	493,592	502,492	535,425	765,279	666,379
静岡民友新聞	-	-	-	-	201,433	823,435

此花新聞は東海日報から明治22年に改題

県統計書』によれば、＜表3＞のとおりである。

＜表3＞の新聞のうち、改進黨の『静岡大務新聞』、『静岡民友新聞』に対して、『東海暁鐘新報』、『暁鐘新報』、『東海暁鐘新聞』、『静岡日報』は自由党系である¹⁾。『暁鐘新報』は廃刊前年の1890（明治23）年には、着実に発行部数を増やしてきた有力紙『静岡大務新聞』を上回り、発行部数が55万を超えていることが分かる。『暁鐘新報』は経営難から1891（明治24）年10月13日に廃刊になった²⁾が、前島豊太郎は同年11月に『東海暁鐘新聞』を創刊した。

『暁鐘新報』の記事から

大川区所蔵・歴史文化情報センター架蔵の『暁鐘新報』は、1889（明治22）年～90年、つまり大日本帝国憲法発布後、初の衆議院議員総選挙を経て第一回帝国議会開会に向かう時期に発行されたもので、政談演説会の広告などが連日掲載されている。

1890（明治23）年3月には、数回にわたって「社告 県下政治家の指名」が掲載されている。「明治廿二年までの社会は評論の政治社会なりしも最早本年は実地の政治社会となり」とあり、同年の総選挙、帝国議会開催を意識して、県内の政治家を「实际的」「学術的」「策略的」「談論的」「平民主義」「貴族主義」「国家主義」「個人主義」「功利的」「功名的」の10のタイプに分けて投票するよう読者に呼びかけた独自企画である。投票結果は1890年4月3日付同紙に掲載された。記事では投票総数が193人で、投票の方法にいくつかの問題はあったことは指摘しながら、タイプ別にそれぞれの政治家名と票数結果を掲載している。結果の上位に井上彦左衛門、影山秀樹、岡田良一郎、西尾伝蔵、依田佐二平、江原素六（以上は、同年7月1日に施行された第1回衆議院議員総選挙当選者）、丸尾文六、渋江保、和田伝太郎、斎藤和太郎、金原明善、澤田寧、前島豊太郎、前島格太郎、栗田輝永、松島吉平、寺田彦太郎、足立孫六、山崎千三郎、小林年保、岡部讓、海野孝三郎、池谷繁太郎、仁田大八郎、竹山謙三、江川英武などの名がみえる。

その他、大同団結運動に関連した記事など、大川区所蔵の『暁鐘新報』は第一議会開会前の静岡県内政治情勢を分析する上でも貴重な資料である。同時期の『静岡大務新聞』と記事を比較してみるのも興味深い。

1) 『静岡大務新聞』、『静岡民友新聞』、『東海暁鐘新報』、『静岡日報』は欠号もあるが、歴史文化情報センターで複製の紙焼きを架蔵し、利用者は閲覧が可能である。『静岡日報』は日本大学国際関係学部図書館所蔵の複製である。

2) 『暁鐘新報』廃刊の事情については、春山1985に詳しい。